

2月 (定例)・臨時 教育委員会会議録

日 時	平成30年2月13日(火) 午後1時から
場 所	山梨市役所 3階 応接室
出席委員名	市川今朝則・林正文・三森智文・幡野勝彦・廣瀬孝子
出 席 事務局員名	角田弘樹、高原歳徳
委員会書記	小林徹

議題及び議事の概要

○議事

(1) 教育委員会の自己点検について

学校教育課長) 地方業育行政の組織及び運営に関する法律に基づき点検・評価を行うこととなっている。

委員) 各項目について点検・評価。

(2) 卒業式・入学式への出席について

学校教育課長) 去年の出席先を参考に、ご協議いただきたい。

委員) 各学校出席者について協議・決定。

(3) 給食センター運營業務の今後の日程について

事務局) 本体工事を行っており、建物については、おおむね年度内に完成する見込み。来年度、運營業務の発注を行うための内容・日程を資料に基づき説明。配送車のコンテナ部分に小学生の絵をラッピングするため、各学校にポスターの募集を行っている。

委員) プラットホームからの配膳作業については各学校に1人ということか。

事務局) 現在のところそう考えているが、小さい学校は必要か等の検討を今後行う必要がある。

(4) 学習支援ソフトについて

事務局) 今年度、校務支援ソフトと学習支援ソフトを研究指定校である笛川小へ導入を進めてきた。校務支援ソフトについては、10月に導入した。学習支援ソフトについては、9月からメーカーからの情報提供をもらうなかで、11月にデモンストレーションを実施、山梨市教育情報化推進委員会の学習支援ソフト選定部会にて評価を行った。この評価に基づき1月に山梨市校務支援・学習支援ソフト選定委員会による選定、市長報告を行い、ベネッセコーポレーションの学習支援ソフトの選定が決定した。

教育長) 校務支援ソフトについて、つい先日、県が、県下統一した校務支援ソフトの導入に向けた動きがあるとの話があった。導入に際しては国補助金(1/2)の対象となる。平成30年度に市独自に校務支援ソフトの導入を図る計画であったが、県の動向を見据えながら対応する必要がある。

(5) 教員の多忙化改善に向けた取組みについて

事務局) 昨年度、県から教員多忙化に対する方針が示された。平成29年5月に市の多忙化対策検討委員会を立ち上げた。改善計画において7項目を設定し、平成29年度の取組み状況について資料に基づき説明。

委員) 各学校での取組みは行っているか。

事務局) 各学校においても改善計画を立てて取組みを行っている。

委員) 部活動への教員の対応について。

事務局) 国・県からの通知文書を改めて周知する等対応していきたい。

委員) 校内グループウェアとは。

事務局) 校内で、教員がPC上で回覧やスケジュール管理、資料の共有等を行うことができる。

(6) 学校事故対応について

教育長) 日本スポーツ振興センターから、当該案件について学校事故として災害給付の認定がされた。学校から正式に保護者へ学校事故として扱うことを通知する。今後は、文科省の学校事故対応に関する指針に基づき対応を進める。

(7) その他

委員) 英語科教育の時間数確保について

教育長) 校長会で検討の結果、夏季休業1日減、冬季休業1日減とする。

次回 3月28日(水) 14時から

議決事項

その他、会議において必要と認めた事項